

題目 屋外に出る際のアジアゾウの仔ゾウにおける要求行動の発達的变化に関する研究  
—共同養育的側面にも着目して—

氏名 上河内 ちえり

指導教員 瀧本 彩加

私たちヒトは、他者と円滑なコミュニケーションをとるために、指差しや言葉で他者に要求を行うことがある。このような要求行動は多くの哺乳類に見られ、ヒトとチンパンジー (*Pan troglodytes*) では、要求行動自体の研究に加えてその発達的变化の研究も行われている。両種の要求行動には、成長に伴い、意図的でない要求（泣く、鳴く等）から意図的な要求（指差し等）に移行する、という共通した特徴がある。この2種には、高い社会性を持ち、共同養育を行う、という共通点があるが、ゾウ (*Elephantidae*) も同様の特徴をもつ。ゾウは、上記2種と同様に、意図的な要求行動を行うが、その発達過程を検討した研究はない。仔ゾウの要求行動の特徴や発達的变化の検討は、ゾウの社会的知性の発達メカニズムの一端を明らかにすることや、高い社会性を持ち、共同養育を行うという生活の基盤となる、要求行動の共通の特徴を探ることにつながる。さらに、要求行動の検討の中で仔ゾウと他個体との関係性を探ることは、飼育下のゾウの共同養育に関する新たな知見を得ることにつながる。そこで本研究では、円山動物園のアジアゾウの仔ゾウの生後8~26カ月にわたって、仔ゾウを含むメス4頭の行動観察を行い、仔ゾウの屋外に出る際の要求行動の発達的变化とその際の共同養育の特性を検討した。要求行動の発達的变化に関して図にまとめたところ、仔ゾウは、若メスに要求することが多く、屋外に出慣れない時期に多く要求することが示唆された。また、仔ゾウの要求は、「鼻を上げる行動」から「他個体に触れる行動」へと発達的に変化していくことが示唆された。さらに、共同養育的側面について分析した結果、若メスは母と同等以上に仔ゾウの前後に屋外に出る時間差が小さく、仔ゾウの生後8ヵ月時には仔ゾウを追って屋外に出る割合が母と比べて大きかった。また仔ゾウが若メスとともに屋外にいるときには、母が仔ゾウを追う割合が小さくなった。つまり、仔ゾウが屋外に出る場面においても若メスによる共同養育が確認されたと言える。ただし、本研究は、特定の文脈における仔ゾウの要求行動の発達的变化のみを検討しているため、今後は、より多くの文脈における要求行動の特徴や発達を合わせて検討することが望ましい。